

2023 年度入試 国語 第 2 回 洗足学園中学校

1 出典：山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか?』

問一は、理由説明問題です。まず1行目～3行目「多くの社会ではルールを正当化する手続きが定められ…。この手続きに従って…『正しい』のだと…。そして、その手続きはそれぞれの社会や国ごとに定められており、…」と書かれています。また6行目に「社会や国ごとに異なる」とあり、そこから「ルールを正当化する手続きに従って定められた『正しさ』は社会や国により異なる」という内容が導かれます。その上で7行目、「そうした差異も、理解不能なほどに多様なものではないのが通常です」とありますので、これらをまとめて記述します。

問二は、空欄補充問題です。「正しさは社会や国により異なる」と考える以上に考えなければならぬ内容が入ります。そのことを述べるための具体例が25行目～40行目です。そして41行目～42行目「これらの法律は『ルールを正当化する手続きの正しさ』を満たしておらず、やはり不正だったというべきでしょう。」とまとめています。したがって、空欄に入れるべき内容は「ルールを正当化する手続きの正しさ」となります(本文中の「 」は字数に含みません)。

問三は、内容説明問題です。「正しさ」がどのように決まるかを問うものです。正解はイです。「正しさ」は、39行目の内容から、「当事者」が関わり、話し合いに基づいて合意し、成立するということです。アは「文化の特徴を…、お互いに尊重しながら」、ウは「大多数の人たちが合意してきた…自分自身の行動や生活態度」、が誤りです。エは「代表者たちの意志に基づくか」と「権力者による強制か」の二者択一にしているのが誤りです。

問四は、Aは例示の「たとえば」、Bは要約の「つまり」、Cは譲歩の「もちろん」、Dは添加の「それに」が、それぞれ入ります。

問五は、「あからさまに暴力的な手続き」について、簡潔に述べる問題です。57行目～58行目から、主語(誰が)は「権力者」です。「どうすることか」については、「法律を一方向的に定める」「それを暴力で強制する」をまとめて書きます。文末「～こと。」に注意しましょう。

問六は、「ある法律が含んでいる暴力」についてまとめる問題です。73行目～74行目「自分自身では気づけなくても、それに苦しめられている人の声を聞いて…」とあります。ここから「苦しめられている」状況があるということです。これは、65行目「代表されていない立場の人たちも多数います」、69行目「合意していないままに従わされる人たち」を指しています。つまり、「議会で定められた法律」が「代表されていない立場の人たち」や「合意していないままに従わされる人たち」を苦しめている、という状況のことです。ここをまとめて書きます。

問七は、「分断された社会」にしないために私たちがすべきことをまとめる問題です。106行目

～110行目の内容から、『人それぞれと』という点を筆者は否定し、103行目「お互いに納得のできる合意点を作り上げていく」という点、105行目「より正しい正しさを実現するよう努力していく」、という点を述べています。以上をまとめて書きます。

問八は、内容一致問題です。正解はウです。アは「断念させる方向へ導かれてしまう」、イ「納得できないものであれば、従わなくてよい」、エ「…真理をふまえたもので、十分説得力がある」、がそれぞれ誤りです。

2 出典：辻みゆき『家族セッション』

問一

(一)は、「姫乃」の、「菜種」に対する思いを問うものです。14行目～25行目と、42行目～65行目の内容から、「姫乃」の家では「菜種」が気に入られていること、そして「姫乃」はそのことに対して嫉妬し、不満に思っています。だから「菜種ってずるい」と言ってしまうのです。この一連の思いと発言をまとめて記述します。(二)は、「菜種」の、「千鈴」に対する思いを問うものです。92行目～109行目の内容から、「菜種」は「一条家」で何もせず迷惑ばかりかけているのにやさしくしてもらっている「千鈴」を「ずるい」と思っています。この流れをまとめて記述します。(三)は、「千鈴」の、「姫乃」への思いを問うものです。124行目～158行目の内容から判断します。「千鈴」は「桜木家」で父と母に優しくしてもらいながら見下している「姫乃」に不満を持っており、口論の際に出てきた「嫉妬」という言葉をそのまま「姫乃」にぶつけ、「門倉家の娘は菜種だ」とヒロ子が言ったことに関する「菜種」への嫉妬だと言ってしまう。そうして「千鈴」は「姫乃」を打ち負かしてしまいます。この一連の流れをまとめて書きます。設問に「どのような思いをどのように言いましたか」とあるので、「姫乃に対して憤る思いを」、「嫉妬によるものだと言い、打ち負かした」などの表現があるとよいでしょう。

問二は、語句問題です。一「耳が痛い」は、「弱点を指摘されてつらい」、二「寝耳に水」は、「不意の出来事におどろく」、三「産声を上げる」は、「新しい物事が作り出される」、四「猫なで声」は、人の機嫌を取ろうとする言い方、五「音を上げる」は、「困難な状況に耐えられない」が、それぞれ入ります。

問三は、「千鈴」の心情を問うものです。92行目～121行目の内容から、「千鈴」は何もできずにただ「一条家」の家族と仲良くしているだけなのに、「菜種」からずるいと言われて困惑していることがわかります。正解はウです。ア「ずるいと言われても気にせずやってきた」、イ「…楽しいとは感じておらず」、「…褒めてもらいたいの、…苛立ちを…」が、それぞれ誤りです。

問四は、「千鈴」に言い負かされた「姫乃」の、「菜種」への心情を問うものです。164行目～174

行目の内容から判断します。「菜種」は「門倉のパパとママ」は「姫乃」を大切に思っているとはっきり言います。「姫乃」は、171行目～173行目の「最初は驚いて…、いったん安心したような…、不安そうな目で…」、174行目「…うちの子になりたくなかった？」と言います。ここをもとに選択肢から正解を選びます。正解はエです。ア「菜種の悲しげな表情から『勝った』と思いきり安心…」、イ「菜種は一条家で暮らすことが本当に嫌になった…」、ウ「…菜種にはかなわない…菜種には逆らえないと不安に…」が、それぞれ誤りです。

問五は、Aは「ちらり、ちらりと」、Bは「じりじりと」、C「ありありと」、D「ちょちょこ」がそれぞれ入ります。

問六は、蟬の描写が作品にもたらす効果としてふさわしくないものを選びます。正解はイです。イだけ誤った説明です。94行目の「蟬時雨の中の…」は、「菜種」の発する言葉に場の雰囲気が変わる状況を指しますが、「…混乱した状況の中で、菜種の発した言葉に心から納得する千鈴の様子」というのが誤りです。

問七は、本文の感想を述べる四人の中で、本文の内容や特徴と合わない発言をしているものを選ぶ問題です。正解はエです。エ(Dさん)の「それぞれの視点から、三者三様の描き方」というのが誤りです。本文は「千鈴」が主人公です。90行目や、155行目～158行目から、「千鈴」だけ内面が語られています。従って、「それぞれの視点から」ではありません。